

相対評価項目と評価基準及び配点

施設整備のコンセプト	施設整備の考え方	評価項目		評価基準	配点
1 人と環境に優しい安心、安全な施設づくり	1) 安全の確保 (配点: 25点)	①防災性	通常時の安全対策	<定性評価> 以下の例に示すような通常時の安全対策について評価する。 ・通常運転時に発生する可能性のあるトラブルを適切に予見しているか。 ・トラブルを未然に防ぐ対策が講じられているか。 ・トラブル発生時の対応策が講じられているか。	8
			非常時の安全対策	<定性評価> 以下の例に示すような非常時(停電時、地震時)の安全対策について評価する。 ・非常時に想定されるリスクがその原因とともに抽出され、整理されているか。 ・リスク顕在化を防止するための事前対応がハード面で講じられているか。	7
		②労働安全性	作業環境	<定性評価> 以下の例に示すような作業環境改善のための提案について評価する。(発注仕様書に記載したもの以外の独自提案を評価対象とする) ・提案した処理システムにおける作業環境上のリスクを適切に予見しているか。 ・労務災害防止、作業環境改善のための対策は適切か。 ・リスクアセスメントの実施実績があるか。	5
			作業動線計画、機器配置計画	<定性評価> 以下の例に示すような日常の維持管理上、扱いやすい機器配置、動線計画となっているか評価する。 ・ダイオキシン類管理区分と非管理区分の区域分けは適正か。 ・作業動線に無駄がないか。 ・緊急時に迅速な対応が可能な配置計画となっているか。 ・車両動線は交錯しないか。	5
	2) 安定の確保 (配点: 20点)	③ごみ量変動への対応性	ごみ量変動への対応	<定量評価> 基準ごみ1における部分負荷特性を評価する。 部分負荷特性は性能曲線から次のような判断基準によって評価する。 評価点4: 補助燃料の増加なしに75%の部分負荷運転が行える。 評価点2: 補助燃料を増加すれば75%の部分負荷運転が可能。 評価点0: 補助燃料を増加しても75%の部分負荷運転が行えない。	4
		④安定稼働性	安定運転実績	<定性評価> 公募条件の確認のため提出させた90日間の連続運転期間における運転日報等の提出を求め、クリーニング運転等による焼却処理中断期間、灰溶融炉の運転停止に伴う焼却灰の搬出量などを調査し、安定運転がおこなわれているか評価する。	7
			安定稼働の実績	<定量評価> 計算式B ボイラ蒸気発生量が記載された日報等(連続する7日分)を提出させ、蒸気発生量の1時間値の変動係数(=標準偏差÷平均値×100)を算出しこれを評価する。なお、提出を求める施設は、提案する処理方式と同じ方式であって、1炉規模50t/日以上概ね150t/日以下とする。	5
		⑤維持管理性	補修性	<定性評価> 維持管理性向上のため、以下の例に示すような補修の容易性が考慮された計画となっているか評価する。 ・マシンハッチや荷物用エレベータが適切な位置に計画されているか。 ・マシンハッチ・荷物用エレベータから主要設備まで補修のための経路が適切に確保されているか。	4

施設整備のコンセプト	施設整備の考え方	評価項目		評価基準	配点
	3) 安心の確保 (配点:25点)	⑥信頼性	建設実績	<定量評価>:計算式A 提案する処理方式における実用施設の稼働実績について評価する。 平成10年度以降の受注物件で平成17年3月31日までに稼働開始した施設数で評価する。なお、評価の対象とする施設は、提案する処理方式と同じ方式であって、1炉当たり50t/日以上概ね150t/日以下とし、蒸気タービン発電機を備えた施設とする。	7
		⑦地球環境保全性	二酸化炭素発生量	<定量評価>:計算式B 直接発生量は、外部燃料、炭素電極の燃焼に伴って発生するものの合計とし、これに、購入電力(売り電が発生する場合はマイナス)の発電に伴って発生する二酸化炭素量を加えたものを総発生量とする。 なお、ごみの燃焼に伴って発生する二酸化炭素は、どのメーカーも条件が同じであるため排出量に加算せずに評価する。	5
		⑧情報の公開性	見学者動線	<定性評価> 見学者が安全に見学できる計画となっているか以下の例に示す項目等を評価する。 ・見学者等一般車両の動線とプラント関係車両の動線が交錯しないか。 ・見学者通路は十分な幅員が確保されているか。 ・見学場所に十分な広さの見学者ホールが計画されているか。 ・車いす等での見学に支障のない計画となっているか。(段差の有無、エレベータの適所配置など)	4
		⑨周辺への安全対策	工事中及び供用開始後の対策	・搬入路(市道63号線)の安全確保対策 ・工事中の安全確保対策及び周辺配慮	4
2 弘法山公園との調和したまちづくり		⑩景観保全性	建物のデザイン	<定性評価> 建物のデザインについて以下の例に示す項目等を評価する。 ・建物のデザイン、色使い ・周辺環境とのマッチング	5
3 ごみのエネルギーを有効利用できる施設づくり	4) 循環型社会の形成に貢献 (配点:18点)	⑪ごみエネルギーの有効利用性	熱回収量	<定量評価>:計算式A 基準ごみ2で2炉運転時におけるボイラ熱回収量にその他の有効熱回収量(炉体冷却等で回収した熱量のうち、場内温水供給等に有効利用できる熱量)を合計したものを熱回収量として評価する。	4
		⑫熱回収性	余剰電力	<定量評価>:計算式Aと計算式Cで計算された値を合計する。 竣工から20年目までの余剰電力量(発電電力量-場内消費電力量)の合計で評価する。また、場内消費電力量の多いものは減点する(最大-1)。	6
		⑬物質回収性	スラグ等回収資源量 組合の負担で資源化するストーカ式焼却方式の焼却灰や流動床式焼却方式の集じん灰は回収資源とはしない。	<定量評価>:計算式A 資源として回収できる物質の総量で評価する。なお、ストーカ式焼却方式、流動床式焼却方式及びストーカ式焼却+灰溶融方式において回収される鉄やアルミは評価の対象としない。	4
4 資源循環型社会のシンボルとなる施設づくり		⑭最終処分量	埋立処分物排出量	<定量評価>:計算式B 竣工から20年目までの最終処分量の合計で評価する。 処理不適物(溶融不適物を含む)、焼却飛灰(流動床式焼却方式の飛灰を除く)及び溶融飛灰(いずれも脱塩飛灰を含む)、ストーカ式焼却+灰溶融方式及び単純焼却方式において回収される鉄、アルミ、不燃物を最終処分量とする。	4
その他 (配点:15点)	その他	⑮経済性	補修費等	<定量評価>:計算式B 竣工から20年目までの補修費等の合計で評価する。 各メーカーから提出された法定点検費、補修費、消耗品費(竣工から20年目までの合計)を合計し、これを評価する。	4
			用役費 ストーカ式焼却方式の焼却灰は1トンあたり4.5万円、流動床式焼却方式の焼却飛灰は1トンあたり6万円 で資源化のための処理をするものとして用役費に加算する。	<定量評価>:計算式B 竣工から20年目までの用役費の合計で評価する。 各メーカーから提出された電力費、薬品費等の用役費(竣工から20年目までの合計)を評価する。	4
			運転人員数	<定量評価>:計算式B 管理部門を除く運転人員数(直勤務者、計量、プラントホーム監視、機器整備等)で評価する。	4

<定量評価の場合の計算式>

X:提案値、Max:提案値のうち最大値、Min:提案値のうち最小値

計算式A 評価点=(X / Max) × 配点

計算式B 評価点=(Min / X) × 配点

計算式C 補正点=Min / X-1

提案値Xが大きいほど優れているもの(余剰電力、物質回収等)

提案値が小さいほど優れているもの(二酸化炭素発生量、埋立処分物排出量等)

電力評価の補正式